



AI技術を活用して、ビジネス社会に イノベーションを起こす人材を育成する

データ活用を段階的に学び「21世紀の実学教育」に取り組む

人工知能やビッグデータの活用により、さまざまな分野の課題解決や新たな価値創出が進む現在、文系・理系を問わず、データサイエンスやAIの知識が必要となっている。嘉悦大学では「21世紀の実学教育」をコンセプトに、早くからICTに目を向けて情報教育に取り組みしてきた。消費者に関する膨大なデータには、ビジネスで成功を収める鍵が隠れている。それらのデータを分析し、駆使する情報技術を使って経営・経済の深層と先端を学び、ビジネスに生かせる人材を育成するためだ。

学生は一人一台PCを持参する。そのPCを使いこなし、データを活用できるようになるため「ICT・データサイエンスプログラム」が組まれており、基礎から段階を踏んで学ぶことができる。学生のリテラシーレベルは多様なため、基礎から丁寧に指導する。特徴的なのは、「経営・経済」を学ぶ学生が、将来の強みとなるデータ活用術を修得できる点だ。そこには、データ

サイエンスの理論や仕組みだけでなく、データを駆使して、社会の流れを読み、先取りできる人材を育てたいという強い思いがある。

ICT環境やサポーター体制が充実
大学運営でもデータを駆使

データサイエンス力のある人材を育成するには、ICT環境やサポーター体制も重要な要素となる。学内Wi-Fiはもちろん、cloudが設定されておりGoogle DriveやWord、Excel、PowerPointなど必要なアプリケーションが自由に使えるサイレントライセンスを取得している。授業にはスチューデントアシスタ



ント(SA)が付くほか、情報メディアセンターに「ヘルプデスク」があり、ネットワークシステムの利用からパソコントラブルへの対応まで幅広い支援が用意されている。さらに、大学のIRに関してもデータインフラの整備を進めるとともに、教職員への教育も行われているため、教職員のICTのリテラシーが高い点は注目に値する。

秀逸な教育プログラムと整った環境・サポーター体制、また、大学運営においてもデータを駆使する嘉悦大学から、データサイエンス力を身に付けた経営・経済のスペシャリストが輩出される。



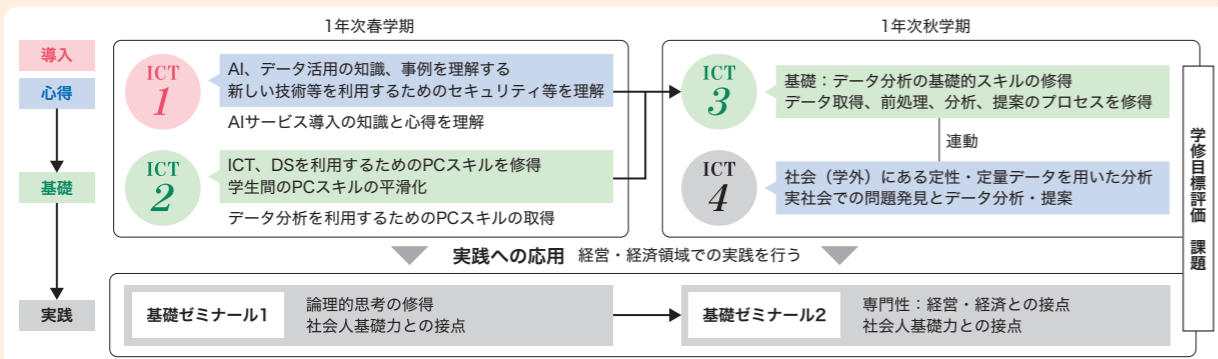
ICT・データサイエンス プログラム

AI技術を経営・経済分野で活用する基礎力を培う 初年次教育プログラム

2019年度から始まった当プログラムは、嘉悦大学で行ってきた情報教育を含めた初年次教育(1年生への基礎教育)を拡張させたもので、AI技術を経営・経済分野において活用できる基礎力を養います。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」として認定されており、さまざまなレベルの学生に合わせた丁寧な教育が特徴です。データ分析の基礎的スキルや、データサイエンス・AIなどの基本的知識を身に付けた後は、地域社会との連携により実践力を育成。フィールドワークで定量的なデータを取り、問題の発見・解決のスキルを他者と協同して学びます。同時に基礎ゼミナールで学ぶ経営・経済領域と連動させ、AIサービスやデータ活用の最新事例を含んだビジネス・研究の展開について考えるなど、実社会の経営・経済領域への応用を意識した学びを展開しています。



プログラム
運営責任者
嘉悦大学
経営経済学部
白鳥成彦教授



ICT・データサイエンス プログラム (応用基礎)

社会のリアルなデータを用いた学びで ビジネス課題を解決できる応用基礎力を養う

当プログラムは2年生以降の発展的な学びで、2020年度にスタートしました。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」として認定されています。嘉悦大学では、2年生からマーケティング系、会計・ファイナンス系、ICT・データサイエンス系、ビジネス法務系に分かれた専門教育が始まります。当プログラムでは経営・経済分野のデータを用いた課題解決やプロジェクト立案を実践的に学べるため、自らの専門分野との融合が加速。「21世紀の実学教育」に欠かせない、ビジネスを中心としたデータサイエンスのあり方を根底においたプログラムで、経営・経済現場とデータサイエンティストの橋渡しをできる人材の育成を目指しています。



プログラム
運営責任者
嘉悦大学
経営経済学部
辰巳奈央
専任講師

